

クイズの解説

- 1 表57文字、裏58文字の合計115文字が刻まれています。古墳時代の資料において、文字がこれほどはっきりわかるものはとてもめずらしく、発見当時(昭和53年)は世紀の大発見と話題になりました。不正解の75文字は、熊本県の古墳から出土した銀象嵌銘大刀(ぎんそうがんめいたち)に刻まれた文字数です。
- 2 辛亥年は、今からおよそ1550年前の471年と考えられています。
- 3 礫(れき)とは石、槨(かく)とはひつぎをおさめる施設のことです。鉄剣とともに埋葬された人物は、石の上に置かれたひつぎの中におさめられたようです。不正解の粘土槨(ねんどかく)は石を使わず、粘土におおわれたひつぎに埋葬するものです。
- 4 馬冑は埼玉県のほかに、和歌山県、福岡県で見つかっています。
- 5 千葉県の房州石が将軍山古墳の石室に使われていたことなどから、古墳時代に現在の埼玉県域の人々と千葉県域の人々には交流があった可能性が考えられます。
- 6 埼玉県内でいちばん大きな前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)です。不正解の90mは将軍山古墳の大きさです。
- 7 どちらも人の形をした埴輪(はにわ)ですが、イは埼玉古墳群内の小円墳で出土しました。正解のケは冑(かぶと)をかぶった武人(ぶしじん)をあらわしています。不正解のイは特徴的な髪をしています。これは「美豆良(みずら)」と言って、古墳時代の身分の高い男性の主流な髪形でした。
- 8 どちらも円筒埴輪という種類の埴輪です。不正解のナは将軍山古墳から出土しました。二つの埴輪を見比べてみると、色・穴の形(ナは円、ンは半円)がちがいます。写真からはわかりませんが、実物を見ると大きさも違うことがわかったと思います。
- 9 どちらも鳥の形をした埴輪ですが、ツは稲荷山古墳から出土しました。

- 10 正解のウは家の形をあらわした埴輪です。シの埴輪は、鉄砲山古墳から出土しました。これは蓋形(きぬがさがた)埴輪といって、身分の高い人にさしかける傘をかたどった埴輪です。右の絵は、元々のかたちを想定したものです。



- 11 どちらも盾形(たてがた)の体が特徴的な盾持人埴輪です。不正解のウは瓦塚古墳から出土しました。
- 12 須恵器とは、古墳時代～平安時代に使用された焼物のことで、基本的には灰色をしています。正解のウは須恵器の中でも坏(つき)という種類で、最も一般的なうつわです。不正解の夕は稲荷山古墳から出土しました。